

卒業論文の要旨

論文題目	スポーツによる人間開発の可能性-カンボジア王国を対象とした日本の国際協力の実践から-
氏名	白土創大
メジャー	国際協力
<p>(要旨)</p> <p>本論文では、開発途上国においてスポーツが人間開発の一要素として機能する可能性と今後の一層の普及について、カンボジアを対象とした日本の体育・スポーツ分野の国際協力の実践から考察した。スポーツには身体運動による健康・体力の向上という潜在能力の強化と、ルールの尊重、忍耐力、チームワークなどという社会的価値の獲得が期待されている。スポーツは人々の選択の幅の拡大という開発の1つとして機能すると仮定した。また、2013年9月7日、日本政府はスポーツ・フォー・トゥモローという新たな国際貢献事業に乗り出した。日本の体育・スポーツ分野の国際協力が一層注目されていき、人間開発の手段として、スポーツが用いられる可能性を考察することは将来的にも意義を増すと考えた。</p> <p>事例研究に選んだカンボジアは過去の内戦の影響から人間開発という側面において他国より遅れているとされている。カンボジアにおける日本の体育・スポーツの国際協力の実践分野として、①保健教育、②体育教育、③運動部活動の分野について、いずれも小学校レベルの国際協力の事例をもとに、人間開発の可能性について考察した。</p> <p>保健の領域では、スポーツは身体運動による健康増進のみならず、「人を集める力」を活用し、健康問題に対する啓発活動を行っている。体育の領域では、カンボジアにおいて体育の国際協力を実践する特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールドが作成を支援し完成されたカンボジア小学校体育学習指導要領に実技の面のみならず、達成が望まれる社会的価値を目標として明記されている。また、カンボジアの運動部活動を通じて、社会的価値の獲得を実感する子どもが多いことが分かった。</p> <p>以上から人間開発の手段としてスポーツを用いる価値は大いにあり、日本の体育・スポーツ分野の国際協力は継続すべきものであると結論付けた。カンボジアにおいては、スポーツをする環境の格差が大きく、体育・スポーツ分野の国際協力を実践するうえで課題となるが、スポーツは子どもの健全な心身の成長に貢献し、長期的な視点から国の発展につながってくると考えられる。開発途上国に体育・スポーツの実践を強要するのではなく、相手のニーズに合わせ、地球市民としてつながることが出来る体育・スポーツの実践が望まれる。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>陸上部に所属する白土さんは、スポーツと専攻の国際協力を接続した。日本による政府開発援助（ODA）の一分野としてのスポーツを、援助を受ける側の開発途上国の子どもたちの成長の側面からとらえた点が評価できる。人間開発の概念の掘り下げなど課題はあるものの、カンボジアで実践にあたる JICA 職員や NGO の方々へのスカイプインタビューを行い現場に迫る努力をした。ご協力頂いた渡辺雅人先生、伊賀野千里先生にも感謝したい。</p>	